

なみなみ通信

福岡県水産海洋技術センター情報誌

なみなみ通信は、センターと各研究所からの情報を、漁業者や県民の方に年4回のペースでお知らせする情報誌です。

VOL.54

発行/平成24年10月



ノリの支柱立て（有明海区）

調査情報

- ・海況情報・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- ・マダイ幼魚の資源調査を実施・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
- ・クルマエビの放流方法を改善・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- ・平成24年度有明海のり養殖のポイント・・・・・・・・・・・・・・ 4
- ・ナルトビエイの有効利用について・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4

研究情報

- ・ノリ養殖におけるカモ食害の実態とその対策について・・・・・・ 5

なみなみニュース

- ・秋イベント真っ盛り・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
- ・「おめで鯛まつり」開催のお知らせ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

普及だより

- ・ふくおか農林漁業新規就業セミナーを開催・・・・・・・・・・・・ 7
- ・ノリ養殖技術講習会を開催・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
- ・平成24年度夏休み体験イベントを開催・・・・・・・・・・・・・・ 8

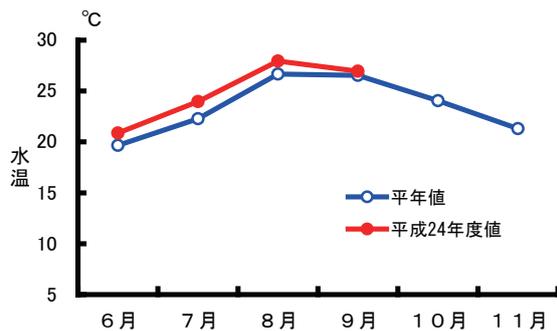
調査情報

海況情報

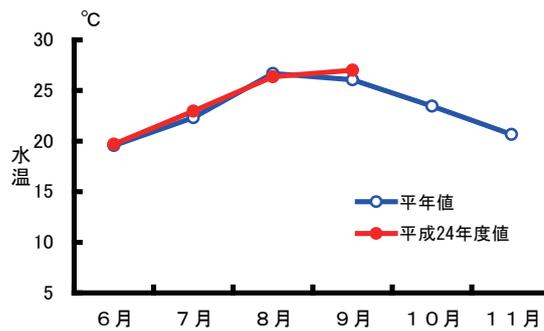
7～9月の表層水温は、筑前海の沖合域では、7、8月はかなり高めで、9月は平年並みとなっています。沿岸域は、7、8月まで平年並みで推移しましたが、9月はやや高めとなっています。

有明海では、平年並みで推移しました。

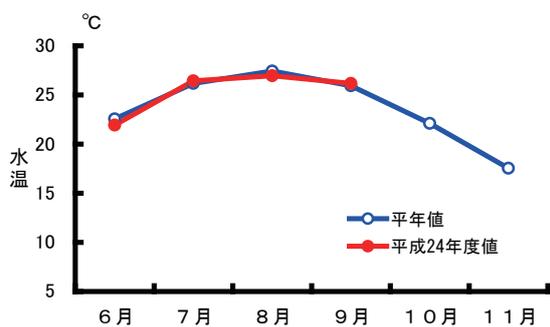
豊前海では、7月は平年並みでしたが、8月以降はやや高めで推移しました。



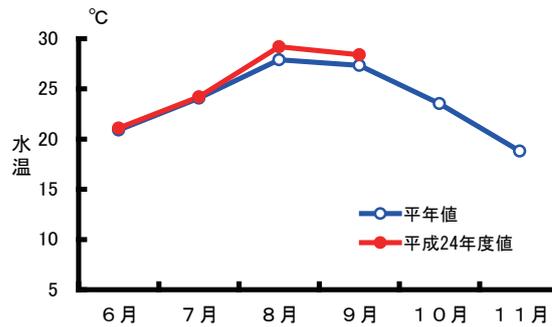
筑前海沖合域の表層水温



筑前海沿岸域の表層水温



有明海の表層水温



豊前海の表層水温

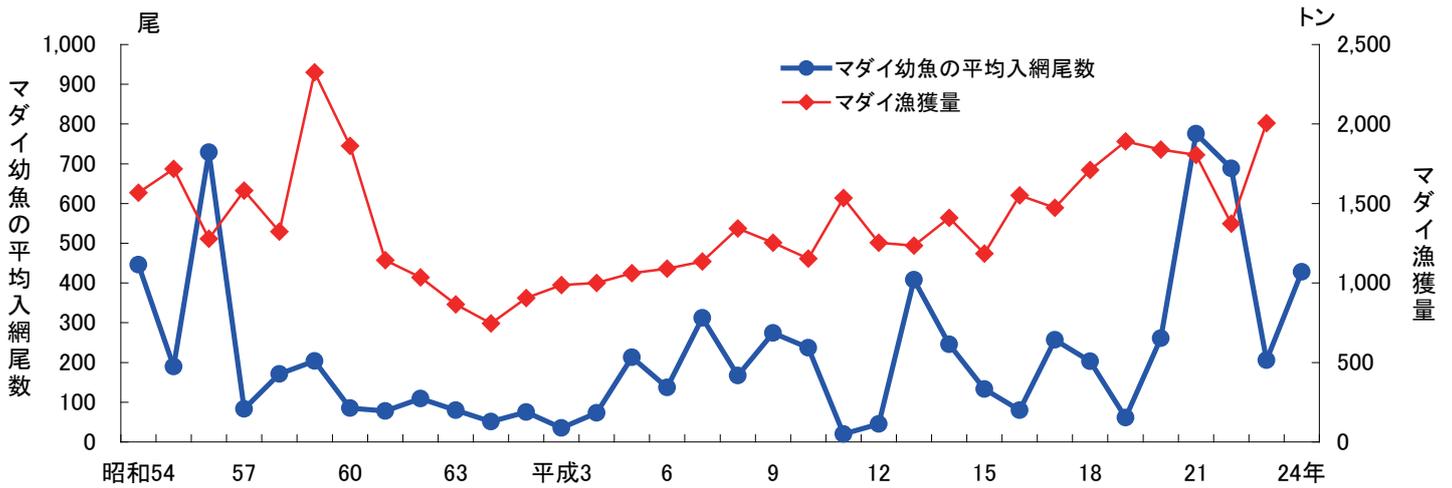
マダイ幼魚の資源調査を実施

今年も7月上旬に宗像、福岡粕屋、糸島の各海域でマダイ幼魚の資源調査を実施しました。

24年の幼魚の平均入網尾数は428尾で、昨年206尾から大幅に増加しました。平年と比べても多く、今年には幼魚の資源量が多い年といえます。

海域別にみると、福岡粕屋海域が最も多く、次いで宗像、糸島の順でした。また、今年には例年よりも小型魚の多いことが特徴でした。

近年、マダイ幼魚の平均入網尾数の多い年が多く、当面はマダイ資源は高水準で推移するものと考えられます。



マダイ幼魚の平均入網尾数とマダイ漁獲量の推移

(センター研究部)

クルマエビの放流方法を改善

本県では、クルマエビの資源増殖のため、各海区で種苗放流が行われています。

今回、福岡地区と糸島地区において、放流直後の他の生物からの食害を防ぐため、放流方法の改善が行われました。

福岡地区では、囲い網を一定期間設置して、その中に種苗を放流してきましたが、放流を昼間から夜間に変更し、食害のさらなる軽減に取り組んでいます。

一方、糸島地区では、豊前海区で実施されているカゴによる放流方法が導入されています。

センターでは、いずれの放流にも立ち会い、その後の追跡調査では、クルマエビ種苗が外敵から身を守るため海底の砂に潜っていることを確認しました。



育成したクルマエビ種苗の取り上げ作業



湾奥に設置された囲い網 (福岡地区)



カゴを使って海底で種苗を放流 (糸島地区)

(センター研究部)

平成 24 年度有明海のり養殖のポイント

今年度のノリ養殖は10月16日から開始されました。直前の10月15日時点での海況は、水温 21.5℃、比重 22.8 で、漁期を迎えるにあたって特に問題ない状況でした。

以下に、ノリ養殖におけるポイントを挙げましたので参考にしてください。

(1) 育苗期

育苗期におけるポイントは「健全なノリ芽の育成」です。冷凍入庫作業は11月8日頃から開始されることとなります。「小潮時の網の汚れ」や「大潮時の干出不足」などに気を付けながら、冷凍入庫までの間、ノリに十分な干出を与える必要があります。

(2) 秋芽生産期

秋芽生産期におけるポイントは「あかぐされ病の被害を如何に抑えるか」です。あかぐされ病は小潮時に感染する確率が高く、この危険期に霧や雨が重なると大量感染等の大被害を招きます。漁場全体で常に適切な干出を確保し、あかぐされ病を極力抑えながら、小潮時には一層の干出を行って、この危険期を乗り切らなければなりません。この時期を乗り切れば、秋芽生産期はノリにとって最も生長の良い時期(水温)なので、十分な生産を揚げる事が可能です。このような意識を生産者全員に持っていただき、秋芽生産を行って欲しいと思います。

(有明海研究所)

ナルトビエイの有効活用について

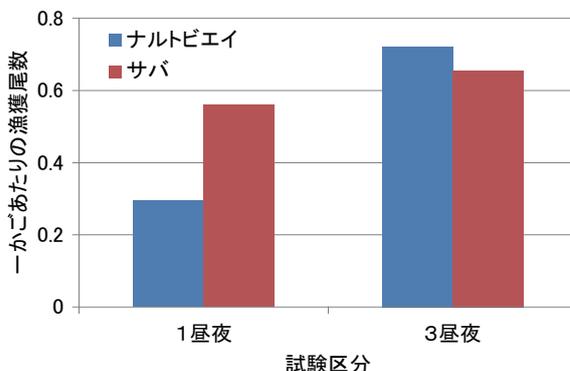
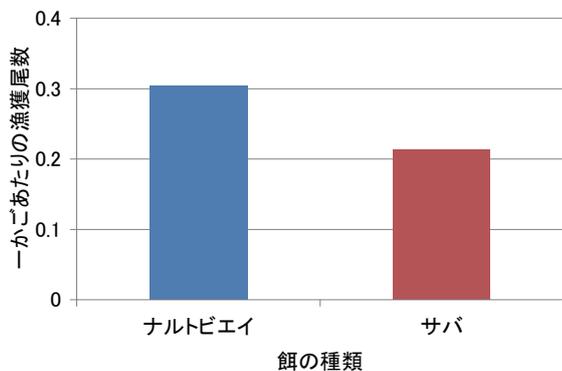
近年、豊前海区では、ナルトビエイが大量に来遊するようになり、アサリ等有用二枚貝類に深刻な漁業被害をもたらしています。このため、研究所ではナルトビエイの生態解明や防除手法の研究を行うとともに、かご漁業用の餌として有効活用する検討を行ってきました。

試験では「たこかご漁」と「かにかご漁」を対象として、通常用いられるサバ餌と、ナルトビエイ餌を用いた場合の漁獲量比較を行いました。「たこかご漁」では、すべての調査でサバ餌よりもナルトビエイ餌の方が多く漁獲されました。「かにかご漁」では、1昼夜投入後に回収した場合はサバ餌の方が多く漁獲されましたが、ナルトビエイの餌持ちの良さに着目して3昼夜投入後に回収したところ、サバ餌と同等の漁獲効果があることがわかりました。



ナルトビエイの餌で漁獲されたマダコ

これらの試験からナルトビエイもかご漁の餌として十分に利用可能であることがわかりました。今後、この成果をもとに現場への普及を図っていきます。



たこかご試験（左図）及びかにかご試験における一かごあたりの漁獲尾数

(豊前海研究所)

研究情報

ノリ養殖におけるカモ食害の実態とその対策について

有明海は、全国有数の養殖ノリの産地です。しかし、どの漁場でも生産が安定しているわけではなく、有明海に注ぐ河川に近い漁場では、生長していたノリが数日で消失してしまう現象が頻発し、原因の解明とその対策が求められていました。

研究所では、有明海に飛来してくるカモに着目し、その行動を詳細に観察しました。その結果、ヒドリガモがノリ網の上に乗ったり、網の下に潜り込んだりしてノリを食べていることがわかりました。

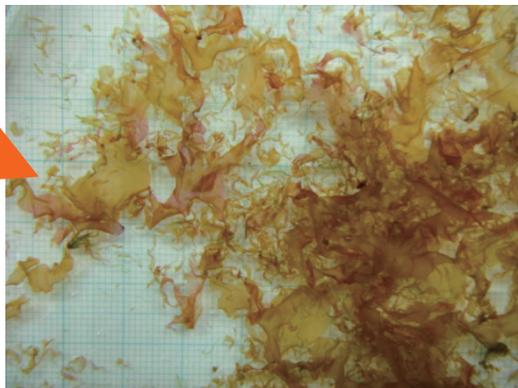
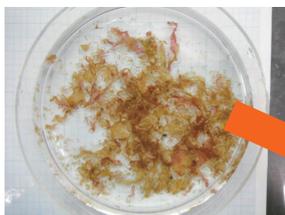
さらに、数種のカモを捕獲し、消化管内容物を調べたところ、ヒドリガモやオナガガモがノリを好んで食べていることがわかりました。

これらのことから、ノリの消失はカモの食害によるものと考えられたので、カモが近づけないよう、ノリの養殖施設を網で囲う対策を試験しています。

これまでの結果、ノリの消失が発生した漁場でも、試験区ではノリの消失もなく順調に生長しており、この対策は有効であることがわかりました。しかし、生産現場への導入には、コストや作業性に課題が残っており、引き続き、試験研究に取り組んでいきます。



養殖ノリを食べるヒドリガモ



カモの消化管から出てきたノリ

(有明海研究所)

なみなみニュース

秋イベント真っ盛り

さわやかな秋晴れの中、漁業や魚食への理解促進のため、各地で漁業者によるイベントが開催されました。その中から一部を紹介します。

①鐘崎生き活き祭

宗像市鐘崎漁港では、10月7日に「鐘崎生き活き祭」が開催され、ケンサキイカやマアジなどの活魚販売をはじめ、旬のカナトフグ（シロサバフグ）を使った海鮮鍋が振る舞われました。

また、活イカなどが当たる抽選会などもあり、早朝から多くの人で賑わっていました。



多くの人で賑わう直売会場

②西浦秋のさかなまつり

福岡市西区西浦漁港では、10月13日に「西浦秋のさかなまつり」が開催され、マダイやウマヅラハギなどの水産物はもちろん、農産物なども販売されるなど、漁村地域の活性化にも貢献しているイベントとなっています。

また、地引網体験も行われ、海から揚がってくる魚をみて、子供たちの歓声があがっていました。



地引網体験

③豊築漁協さかな祭

豊前市宇島漁港では、10月13日に「豊築漁協さかな祭」が開催されました。豊前海で獲れた豊前本ガニ（ガザミ）やシバエビなどの水揚げされたばかりの魚介類が飛ぶように売れていました。

また、子供たちを対象とした魚のつかみ取り大会では、子供たちがずぶ濡れになりながらも元気よく魚を追いかけ回していました。



豊前本ガニなどを直売

「おめで鯛まつり」開催のお知らせ

福岡県では、毎年11月を「フクオカ・サイエンスマンズ（科学技術創造月間）」と位置づけ、青少年をはじめとする県民の皆さんに科学に対する理解と関心を深めていただくため、研究施設の一般開放や成果の紹介等を行っています。

センターでも、毎年恒例となった「おめで鯛まつり」と調査取締船「げんかい」の一般公開を11月23日（金・祝）に行います（入場料は無料です）。

イベントの詳細については、サイエンスマンズイベントガイドや、フクオカサイエンスマンズのホームページ（<http://www.fukuoka-sciencemonth.com/>）、水産海洋技術センターホームページ（アドレスは8ページ）を御覧ください。今年もたくさんのご来場をお待ちしています。



昨年度の様子（左：タッチングプール、右：ノリすき体験）

普及だより

ふくおか農林漁業新規就業セミナーを開催

県では、漁業への就業を促進するため、8月12日にふくおか農林漁業新規就業セミナーを開催しました。セミナーでは、就業希望者の方に、本県の漁業をわかりやすく紹介するため、先輩漁業者からの講演を行いました。今回は、今年の春に真珠養殖業に就業した藤木さんに漁業に就業しようと思った動機などを語っていただきました。

講演の後の相談会では、10名程が漁業のブースを訪れ、担当者の話を真剣な表情で聴いていました。



担当者からの説明を聴く就業希望者

ノリ養殖技術講習会を開催

有明海研究所では、今年の夏もノリ漁期を前に、ノリ養殖業への新規就業者を中心に、ノリ養殖の基礎知識や検鏡方法などについて講習会を実施しました。

受講者の皆さんは真剣に講習を受け、顕微鏡の操作など瞬く間に身につけられました。講習会の最後には、受講者に修了証をお渡ししています。



ノリ養殖技術講習会

平成24年度夏休み体験イベントを開催

今年も夏休み期間を利用した体験イベントを実施しました。このイベントは小学生を対象とし、水産業や水産海洋技術センターの業務に関する理解を深めてもらうことを目的としており、内容は「海の贈り物アートをつくろう」「海の生き物にさわろう」「かまぼこをつくろう」及び「プランクトンを観察しよう」の4イベントでした。

これらのイベントには定員を超える多数の参加申込があり、厳正な抽選を行って参加者を決定させていただきました。どのイベントの参加者からも、「楽しかった」という声を多く聞くことができました。



プランクトン観察 (8/10)



子供達がつくったかまぼこ (8/23)

<編集発行> 福岡県水産海洋技術センター企画管理部企画情報課
〒819-0165 福岡市西区今津1141番地1
TEL 092-806-5251 FAX 092-806-5223
センターホームページ <http://www.sea-net.pref.fukuoka.jp/>
携帯電話対応 <http://www.sea-net.pref.fukuoka.jp/mobile/>